
悪夢・・・

東風こち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪夢・・・

【Nコード】

N9231E

【作者名】

東風こち

【あらすじ】

私は夢でも見ていたのだろうか・・・それともこれは私の体験だったのか・・・

私は、どことも知れぬ洞窟を歩いていた。

暗い洞窟ではあったが、真っ暗ではなく、多少は目が利く程度の暗さであった。

「いったいここは・・・」

私がつぶやきながら歩いていったとき、ふいに目の前が真っ暗になり不気味な羽音がして・・・いや、本当に真っ暗になったわけではなく、目の前が真っ暗になったのはどうやら蝙蝠達の群れが飛び立ち、私の視界に飛び込んできたからだろう。

私は反射的に身を伏せてかわした。

「これは夢なんだろうな・・・」

確信が持てないながらも、そう思おうとしていた。

しかし確かに、今なんとなく地面を踏んでいる感覚が、ふわふわとしたもののような気がした。

そして、それから5、6分くらい歩いた頃だろうか、前方から明るい光が漏れていた。

そのまま進んでみる。どうやらそこには、広い空間があるようだった。

そして、そこまで辿り着いてみると、中はちょっとした広さの部屋くらい

の空間があつた。その中に、1人の人物がフード付きのマントを身につけて

部屋の真ん中に座っていた。

床には変な模様が、まるで魔法陣を思わせるような形に描かれており、星

の形のような五芒星の各頂点には燭台が立っており、その上に蠟燭が異様な

光を放ちながら、燃えていた。

「よくぞ引き返さずにここまで来たものよ……」

突然、フードの下から聞こえてきた声は老婆のものであった。

「あなたは？」

私は、とっさにその質問をしていた。

しかし、その人物は答える代わりに、別のことを私に語りかけてきた。

「この先に御主の未来が待ち受けておる。御主がそこに行くか、引き返すか

は自由じゃ。じゃが、行くも引くもそれなりの代価を払わねばならん。御主

に、その代価を払う覚悟はあるか？」

私は戸惑った。いったいこの人は何を言っているのだろうか？

「留まるのも御主の勝手じゃが、ここにずっとこうしておるのかえ？」

私が迷っていることに気付いてかどうか、そう言ってきた。

「あとう、ひとつだけどうしても聞きたいんですけど」

「決断の時は迫っておる。その御主の性格が災いせぬことを祈って
いてやる
う」

それだけ言うと、その人はすうーっと溶けるように消えていった。それと同時に、今まで明るかった部屋が急に真っ暗になった。た

ぶん蝋燭
が消えたのだろう。

私は仕方なく前に進むことに決めて、目が慣れるのを待って歩きだした。

先ほど通った道とあまり変わらない道が続く。

しかし、歩き始めて間もなく、今度は後からなにかがこちらに向かってき

ているような音がしていた。

と、私が振り返った瞬間のことだった。

「キーキー!!!!」

私はとっさに逃げようとしたが間に合わなかったらしい。後ろからなにか

獣のような鳴き声が聞こえ、飛び掛かってきた。そいつは爪をきりりと光ら

せて私の背中を切り裂き、私の意識は恐怖の支配する闇の中へと・・・。

私は汗をびっしょりと掻いて、ベッドの上にいた。あれは何だったのだろ

うか？その疑問だけが、私の頭の中を駆け巡っているのだった。

(後書き)

初めての投稿作品です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9231e/>

悪夢・・・

2011年10月5日05時37分発行